

市史だより

がちまやあ Ga či-majaa

第 19 号・2010 年 1 月 29 日 (金) 発行

年 3 回 (5・9・1 月 発行)

編集・宜野湾市教育委員会文化課 市史編集係

〒901-2710 宜野湾市野嵩 1-1-2

問い合わせ・情報提供先



(098) 893-4430

Fax (098) 893-4434

E-Mail: kyoiku08@city.ginowan.okinawa.jp

※宜野湾市役所のホームページで、バックナンバーも公開中!!!

HP: <http://www.city.ginowan.okinawa.jp>



心から姿若くなゆさ

あらたまぬ年に
炭と昆布飾てい



しめ縄〔野嵩〕

平成 22 年も明けて、はや 1 か月が経ちますが、今年は 2 月 14 日が旧暦の 1 月 1 日。すぐ旧正月がやってきます。沖縄の正月飾りといえば、“みかんと昆布で巻いた炭”が特徴的です。橙色のみかんは「先祖代々家が繁栄する」、昆布は「喜ぶ」、炭は「長く朽ちない(健康長寿)」の願いが込められているそうです。

ところで“正月”と名のつく行事をいくつご存じですか？

まず、1 月 15 日はジューグンチショウグワチ (十五日正月)。宇地泊では昼にジューシー (雑炊) を霊前に供えたそうです。次に 16 日はグショーヌショウグワチ (後生の正月)。「ジュールクニチー (十六日)」とも言います。15 日までは不浄に触れることを慎み、その翌日にお墓にお供え物をして先祖供養を行いました。現在はシーミー (清明祭) の方が盛んになり、宜野湾市内ではほとんど行われていないようです。そして、20 日はハチカショウグワチ (二十日正月)。正月の祝い納めの日です。正月飾りを取り、年末に作ったスーチカー (豚の肉の塩漬け) を食べ終えます。甕の底から取り出す最後の肉を「ウチントウジシ (うつむいて取る肉)」と言います。また、その甕を洗うことから「カミアレーショウグワチ (甕洗い正月)」とも言いました。

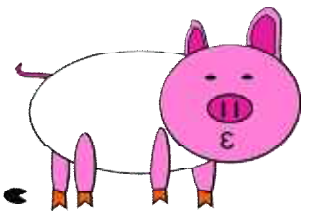
あまり聞かなくなった行事もありますが、あらためて思い出してみませんか？

(※詳しくは『宜野湾市史』第五巻 民俗 をご覧ください！)

トンとん豚



【年越しと豚】



皆さんは、年越しをどう過ごされましたか。日本では、大晦日に「年越しソバ」を食べる習慣があります。沖縄では、大晦日のことをトウシヌユルー(年の夜)と言い、年越しに豚肉を食べる習慣があります。近年はみかけなくなりましたが、かつては市内の多くの地域で、旧暦12月27日に正月用の豚を屠殺する「ウワークルシー(豚殺し)」があり、年末から年始にかけて、豚肉を食べていました。



【豚の伝来】



沖縄への豚の伝来は、14世紀頃というのが有力な説です。沖縄での養豚は、琉球王国の時代からウワーフルと呼ばれる石造りの便所兼豚小屋で育てられていたようです。戦前から市内でも豚の飼育は盛んで、神山や真栄原などには、種豚飼いや豚の去勢を生業とする人もいました。一般家庭の豚は主に換金用でしたが、家庭用として年に1度、年末に豚を屠殺し、食べていました。肉を食べる機会が少なかった頃の楽しみであったといえます。



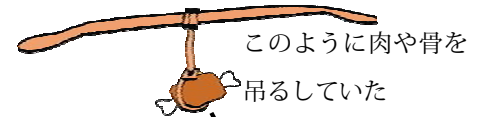
豚舎で飼われる豚(旧具志川市兼箇段)
現在の主要品種は外来種である。



【豚の信仰】



沖縄でもなじみの深い豚ですが、豚肉は様々な拌み行事にも使われました。主なものでは、旧暦2月2日に安仁屋や新城、伊佐で行われたシマクサラシの行事があります。左縄に豚の肉や骨をくくり、部落の入口に吊るすことで、魔除け、疫病除けになると考えられていました(地域により、牛や山羊の場合もある)。また、野嵩や真志喜などで行われるコーヌユエー、ガンゴーと言う字行事や、大謝名などで行われる土帝君祭りでも、かつては豚を一頭屠り、その肉を供えていました。家庭の盆・正月・清明祭での先祖への供物にも、豚肉料理は欠かせない存在です。



シマクサラシの様子(旧大里村大城)
電柱の間(写真中央)に肉を吊るしている。



ウワーフル(嘉数)

また、フルの神は屋敷の中で最も権威のある神とされ、厄除けの力があると信じられています。市内

には、マジムン(魔物)に後をつけられると、屋敷内のフルに立ち寄って豚を叩き起こし、その鳴き声を聞いてから家に入るという習俗がありました。また、魂を落としたときのマブイグミ(魂込め)もフルで行われました。これらの習俗は、フルが水洗トイレに代わった現在でも伝えられ、家庭のトイレで行われています。

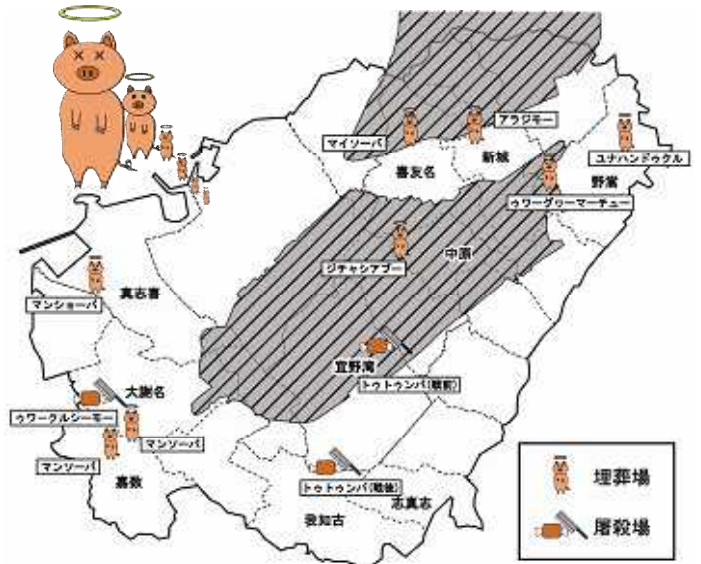


【豚と地名】



市内には、豚にまつわる地名が残っています（右図参照）。戦前の沖縄では、ときおりウワーヌフーチ（豚風邪）と呼ばれる疫病が流行し、豚が大量死していました。病気で死んだ豚は食べることが出来ず、村外れの松林などに埋められました。そのような埋葬地の地名が市内各地にありました。これらの場所は家畜全般の埋葬地でしたが、葬られた家畜のほとんどは豚だったそうです。

また、市内には公設のトゥトゥンバ（屠殺場）がありました。戦前のトゥトゥンバは、現在のいこいの市民パーク付近にあり、そこで屠殺され、切り分けられた肉は、行商が売り歩きました。肉を赤い箱に入れ持ち運んだため、行商たちはアカバクー（赤箱）と呼ばれていました。戦後、トゥトゥンバのあった場所は普天間飛行場に接收されたため、現在の志真志小学校グラウンド側の崖地に新設し、本土復帰の頃まで営業していました。

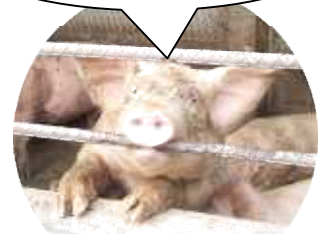


【豚の文化】



沖縄では、古くから豚が最も身近な家畜でした。そのため、豚肉料理を始め、豚肉を供える祭祀行事や地名、民話の中にも豚が登場します。戦前、沖縄は日本一の養豚県で、昭和10年代の市内でも飼育戸数は2,000戸以上、約3,000頭の豚が飼育されていました。しかし、近年では豚舎も減り、日常で豚を見かける機会は少なくなりました。沖縄の特色でもある「豚の文化」を、大切にしたいものです。

方言で豚に“ウワー”
というブー



見つけてみよう！

～ 道ばたに咲く彩りいろいろ ～



寒い季節ですが、よく見ると道ばたには、あたたかな色合いの花々が咲いています。色々探してみませんか？



ツワブキ〔キク科〕



鮮やかな黄色い花が、宜野湾市役所内の花壇にも咲きほこっています。若い葉の柄は食べられますが、あく抜きが必要です。花が終わると、タンポポのような綿毛の種をつけます。

方言名をチファファ【宜野湾・宇地泊】、チーパッパー【我如古】などと言います。

オニタビラコ〔キク科〕

タンポポに似た小さな黄色い花を咲かせます。ヤギやニワトリなどの家畜の餌として利用されますが、繁殖力が強いため、畑では嫌われます。

方言名をチンチャクナー【野嵩】、鳥の（トゥイヌ）足（ヒサ）に似ていることからトゥイヌヒサ【宜野湾】などと言います。



紙でできた宝もの！ ～宜野湾の公文書～

公文書って何!?

公文書（こうぶんしょ）とは、国や県、市町村などの行政機関で作られた、公（おおやけ）の文書のことです。行政機関は、行った事を、小さな事でも文書として記録し、残しておきます。

少し難しい話になりますが、民主主義では、本来は国民が国の事を決める事になっていきます（市役所などの行政機関は、それを代理として行っているだけです）。そのため、例えば宜野湾市の場合、市が行っていることを、市民に説明する責任があります。そのための資料や証拠として、公文書を作成しているのです。また現在の文書から何年も昔の文書まで、取捨選択しながら、保存します。

宜野湾の過去から現在までが詰まっている公文書。人に例えると、生まれてから今までの「記憶」と同じものだと言えます。



公文書がつづられたファイル
今はどこにでもあるファイルでも、時がたつと貴重な資料になります。



英文で書かれた文書（左）と宜野湾村の地図（右）
これら行政文書の内容については、市史や過去の「がちまやあ」でも一部紹介しています。

何で公文書を保存するの？

公文書を保存する理由は、大まかに言うと以下の3点になります。

- ①市民に、市が行っていることを説明するため
- ②歴史を知るための資料として
公文書には、そこに暮らした人々の歴史が詰まっています。地域の歩みを知るには欠かせない、貴重な資料です。
- ③市民の財産や権利を証明するため
例えば過去に税金を支払っているのかどうか、昔の土地の境界はどうなっているかなどが、公文書からわかることがあります。



公文書が保存されている倉庫の様子

文書が入った箱がたくさん並んでいます。最近では文書の電子化が進んでおり、このような紙の文書は少なくなっています。電子文書をどのように保存していくかがこれからの課題です。

文化課は何をしているの？

文化課では、作成から3～10年以上経過した過去の文書の中から、歴史的に重要なものを選んで保存しています。また昔の貴重な文書などを集めて保存し、宜野湾の歴史や文化を守っています。



注意

- ・文化課では、基本的に文書の公開は行っていません。
- ・文化課で扱っているのは、保存年限が切れた文書（非現用文書）のみです。

HOW TO 文書保存

宜野湾には、戦後すぐの時期（1946年～）に作成された古い文書が残っています。他市町村にはこのような文書はほとんどなく、宜野湾の貴重な財産です。

しかし破れたり傷んだりしているものが多く、扱いを間違えればすぐに壊れてしまいます。そこで文化課では、これらをそのままの形で守っていくために、整理・保存作業を進めています。



破れや傷みがないかチェックします。



長さ・幅・高さなどを測ります。



文書の年代や文書件数、どんなことが書かれているかなど、内容を調べます。



文書の情報を整理します。

そうだっ! シーサーを探しに行こう!!

沖縄の代表的な文化の一つに獅子像（シーサー）があります。琉神マブヤーもシーサーがモチーフになるほど、身近な存在です。14～15世紀、中国との交易の中で沖縄にもたらされたシーサーは、古くから魔除けや守り神として扱われてきました。ここでは、様々な種類のシーサーたちを紹介します。



(宜野湾市喜友名)



(那覇市首里 玉陵)

石製のシーサーは、琉球時代から既にあり、首里城や玉陵にも見られます。家だけではなく集落を守るシーサーもいます。その姿は様々です。

焼物のシーサーは、明治期に瓦屋の制限が解除されてから、普及しました。頭だけのシーサー（チブルシーサー）や全身のものなどがあります。



(宜野湾市嘉数)



(那覇市壺屋)



(本部町山里)



(宜野湾市中原)

漆喰のシーサーは、焼物と同様、明治期から作られ始めたと言われています。左官がサービスとして作っていたのが始まりのようです。個性的なシーサーがとても多くあります。

私たちにとって、身近な存在となったシーサーですが、今では更にユニークなシーサーも登場しています。シーサーを探しに出かけよう!



(宜野湾市真志喜)



(読谷村残波岬)

伊佐浜闘争 ～抵抗の記憶～

伊佐浜闘争

「銃剣とブルドーザー」という言葉によく知られるように、戦後、米軍は武力でもって沖縄の土地を次々に強奪し、新たな基地の建設を強行していきました。

1955（昭和30）年、米軍は宜野湾村（当時）伊佐浜の約13万坪にも及ぶ肥沃な土地を強制接收しました。多くの人びとが土地を失い、そのなかには家屋の立ち退きを余儀なくされ、美里村のインヌミヤードウイ（現沖縄市高原）やブラジルに渡った人もいました。

しかしこの強制接收に至る過程には、土地接收に反対する伊佐浜の人びとと数多くの支援者による、まさしく「伊佐浜闘争」と呼ぶべき粘り強い抵抗がありました。「伊佐浜闘争」は翌年爆発する「島ぐるみ闘争」への導火線となり、米軍占領に対する沖縄民衆の抗いは熾火の如く広がっていきました。

証言を聞く

現在、市史編集係では『宜野湾市史』第8巻戦後資料編の第二弾として「伊佐浜の土地闘争」の編集事業に取り組んでいます。資料の編集と並行して実施している聞き取り調査では、当時の関係者に体験をうかがい、証言として編集する方針です。これまで伊佐区にお住まいの澤岬安一さんから当時のお話をうかがうことができました。



調査風景 伊佐区公民館にて

澤岬安一さんの闘い

戦後、澤岬さんは地上戦で荒れ果てた伊佐浜の農地の開墾に精を出しました。一口に開墾といっても並大抵のことではなく、伊佐浜の水田は澤岬さんがこれまで見たこともないくらいに、荒れ果てていたそうです。

開墾の甲斐もあって、やがて稲の収穫は安定し、伊佐浜の島米は全琉一にも輝きました。しかし、1954（昭和29）年、突如として米軍は伊佐浜の水田一帯に稲の植付けを禁じました。伊佐浜の人びとは接收の反対に立ち上がりました。「この土地を失ったら、伊佐浜の人たちは生きていけない」。澤岬さんは、当時伊佐浜代表だった父親のかわりに、夜な夜な陳情書を書き続けました。しかし、澤岬さんたちの訴えは軍には通じず、1955（昭和30）年7月、米軍はついに伊佐浜の土地を強制接收しました。海岸に停泊する浚渫船がリーフの土砂を伊佐浜の美田に流し込んだと言います。武装した米兵に対し、体を張って接收を阻止しようとした澤岬さんは「まさしく戦争状態だった」と、当時の状況を語ってくれました。



当時を語る澤岬安一さん（大正11年生）

<おねがい>

伊佐浜闘争及び接收当時の状況をよく知る人を探しています。

☎098-893-4430 までご連絡下さい。

市町村史の編集、あれこれ！

■沖縄県地域史協議会とは？

この「がちまやぁ」を皆さんにお届けしているわたし達は、宜野湾市の歴史・民俗・自然を『宜野湾市史』という本にまとめる仕事をしています。沖縄県内の各市町村は、わたし達と同じように、その地域の歴史を編さんしている事務局があります。その地域史の編さん事務局同士が集う場として「沖縄県地域史協議会（通称：沖地協）」があります。

この沖縄県地域史協議会は、1978（昭和53）年11月4日に「それぞれの地域史づくりの個性と自主性を互いに尊重しあい、友情を深め、地域史研究と地域づくりの発展向上をめざす共同の討論と交流の場として（設立趣意書より）」設立しました。その設立の目的は、「地域史編集関係者相互の情報と資料の交換と親睦を図るとともに、史資料の発掘・収集を推進し、市町村史（誌）等の地域史づくりの発展と地域文化の振興に寄与すること（沖縄県地域史協議会・会則より）」でした。

現在は、36機関が加盟しています。

沖地協加盟機関一覧

(36機関、2010年現在)

| | |
|----------------|----------------|
| 与那国町史 | 竹富町史 |
| 石垣市史 | 宮古島市史 |
| 沖縄県平和祈念資料館 | ひめゆり平和祈念資料館 |
| 糸満市史 | 八重瀬町史 |
| 豊見城市史 | 南城市史 |
| 南風原町史 | 財団法人 沖縄文化振興会 |
| 那覇市議会史 | 那覇市歴史博物館 |
| 首里城公園 | 与那原町史 |
| 西原市史 | 浦添市立図書館 沖縄学研究室 |
| 浦添市教育委員会文化課 | 宜野湾市史 |
| 中城村史 | 北中城村史 |
| 沖縄市史 | 北谷町公文書館 |
| 嘉手納町史 | 読谷村史 |
| 具志川市史 | うるま市立石川歴史民俗資料館 |
| 金武町史 | 宜野座村立博物館 |
| 恩納村誌 | 名護市史 |
| 伊江村教育委員会 郷土資料館 | 今帰仁村歴史文化センター |
| 琉球大学附属図書館 | 法政大学 沖縄文化研究所 |

◆地域のことを学びたい人は、図書館などで市町村史を読むか、その編集事務局を訪ねてみてはいかがですか。

■個性豊かな本づくり

各市町村で刊行するテーマは異なります。主なテーマには、新聞集成・戦争体験・文献資料・民俗・移民・産業・教育・考古・戦後・写真集があり、これらの総括として通史があります。

こういった市町村史は、分厚くて重く、内容が専門的で難しいイメージがあります。でも、最近ではソフトカバーで、読みやすく、写真や図でわかりやすくまとめた物や、学校の教材用にも使えるビジュアル本を出す所もあります。

わたし達、宜野湾市史では、市民からの聞き取りや関係する歴史資料を学術的にまとめ、市民が歩んだ歴史を記録に残すことを目的とした資料集と、その資料集をより分かりやすく写真や図をふんだんに載せたビジュアル本(解説本)の、同じテーマでも利用者のニーズに合わせた市史づくりを行っています。



沖縄の市町村史の編さんは、他府県よりも盛んに行われています。県民の地域に対する思いが伝わってきます。

■市町村史の編集を通して思うこと

沖縄県地域史協議会が発足して30年が経過しました。設立当初の加盟機関の中には編集事業を終え、これまで集積した資料を生かして博物館や公文書館に発展する所もあります。

その地域に人々が生活している限り、歴史はつづきます。歴史をまとめ検証することで、現在のあり方や未来への道しるべとなるのです。